

へんたいがな 現代人の知らない「変体仮名」の世界

同志社大学提供
作成日 2016年3月21日
更新日 2017年3月7日

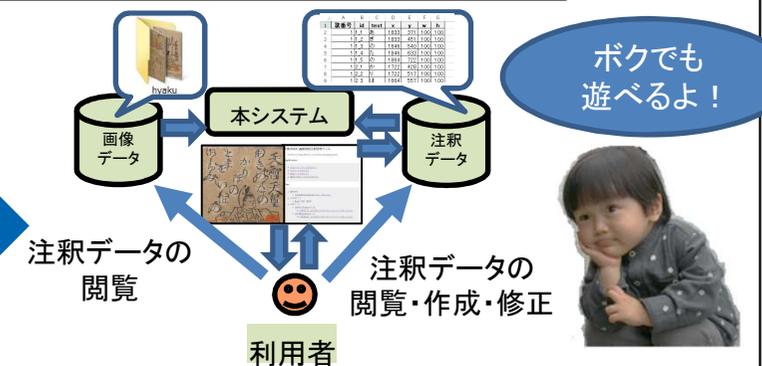


研究者氏名 ふくだ ともこ・ふかがわ だいじ 福田 智子・深川 大路	所属機関 同志社大学 文化情報学部	関連キーワード(複数可) 古典籍・変体仮名・データベース・教育ソフト 文字列解析・アルゴリズム・データマイニング 和歌・百人一首・日本古典文学
主な研究テーマ 福田(国文学:平安文学・和歌文学)と深川(情報科学:理論計算幾何学)は、基盤研究(C)平成25～27年度(直接経費:380万円)課題名「伝統文化形成に関する総合データベースの構築と平安朝文学の伝承と受容に関する研究」に引き続き、基盤研究(C)平成28～30年度(直接経費:350万円)課題名「古典籍の保存・継承のための画像・テキストデータベースの構築と日本文化の歴史的研究」に取り組んでいます。		主な採択課題 ・基盤研究(C)平成19～21年度(配分総額:4,160千円)課題名「文字列データ解析システムの構築と平安中期歌語生成に関する研究」 ・基盤研究(C)平成22～24年度(配分総額:4,290千円)課題名「文字列データ解析システムの構築と平安朝文学の伝本と表現に関する総合的研究」

① 研究目的と成果

変体仮名(現在、一般に使用されている仮名とは異なった字体の仮名)は、日本の古典籍に記される文字ですが、明治33年(1900)に小学校令が施行されてからは、学校教育では用いられなくなりました。そのため、現代人にとって変体仮名は、未知の外国語にも似た縁遠い存在になってしまっています。つまり、ここ100年程の間に、過去の人々の英知を読み解き、現代に受け継ぐ力が、急速に衰えているのです。そこで、江戸時代に作られた同志社大学所蔵『百人一首かるた』を使って、**変体仮名読解に資するWeb教材TIRAMiS“Toolbox for Image Resource Annotation ManagIng System(ティラミス)”**を開発しました。これは、**画像データとその注釈データ(変体仮名を平仮名に改めたテキストや仮名の字母テキスト)とを繋ぐデータベースシステムを構築し、その上に、ゲーム感覚で変体仮名の読みの稽古ができるツールを設定したものです。**

② 当初予想していなかった意外な展開



研究当初は、「研究者用」データベースの作成を目的としていました。ところが、〈文字に対する知的好奇心〉のおもむくまま、〈システムの使いやすさ〉を追究していくうちに、商品(ゲーム)開発に発展していきました。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元

“TIRAMiS”をさらに改良・使用することによって、**古典籍の画像と、その理解を助ける文字情報が、いつでも・どこでも・だれでも、簡単に楽しく見られるようになるでしょう。**それは、**変体仮名が読める人を増やし、ひいては、現代人が忘れかけている過去の人々の経験や知恵を継承し、発展させていくことにつながるのです。**